

2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法 正誤表

指針と解説編

ページ	位置	誤	正
p.48	L14	「ただし、充足率の低いもの・・・」という文章を、 <u>左に寄せる修正</u> 。 (上述の①～③のすべてにかかるただし書きであることを明確にする修正)	
p.72	解表 4.1(a)、 解表 4.1 (b) 4ヶ所	大壁・石膏ボード (<u>t12、直貼り、GNF40</u> <u>四周打ち@150</u>)	大壁・石膏ボード (<u>準耐力壁仕様</u>)
p.102	下 L2	なお、 <u>垂れ壁・腰壁に挟まれた独立柱の有無を確認する</u> 。この柱は、地震時に他の柱よりも、層間変形角が小さい変形時に曲げ破壊を生じる可能性が高い。	なお、 <u>垂れ壁・腰壁付き独立柱</u> は、地震時に他の柱よりも、層間変形角が小さい変形時に曲げ破壊を生じる可能性が高い。 (理由：解説が重複しているため)

例題編・資料編

ページ	位置	誤	正
p.30	建物の重心位置の算定 (1)床面積の計算 1階(2階床レベルの荷重による)の重心 の表における「ブロック面積」 の記号修正	A_{2j}	A_{1j}
p.50	L10	(6)	(7)
p.56	6. 必要耐力の算定 (b)建築基準法施行令に準じて 求める方法 (6)必要耐力の算定 の表	⑩の位置を「地震力」から「軟弱地盤割増し」の位置に移動する修正	
p.61	平面図の修正	原点の位置をグリッドの左下角へ修正	
p.129	L8	k_1 : 軒の出による割増係数 (表 2.1-1 参照)	k_1 : 軒の出による割増係数 (資表 2.1 参照)
p.190	資表 4.4.3 平屋建て (積雪 2m) の表	壁基準耐力 7.0kN/m、基礎 I、接合部 II の数値 <u>0.9</u> → <u>0.8</u> に修正	